

## 大平弘正教授 開講 10 周年に寄せて

福島県立医科大学第二内科同門会  
会長 吉田 直衛

大平弘正教授開講 10 周年誠にありがとうございます。

昭和 23 年（1948 年）開講の第二内科学講座は大平教授で 5 代目の教授となり 68 年の歴史を刻んでまいりました。この間、世の中では昭和 39 年（1964 年）にオリンピック東京大会が開催され、その後昭和 53 年（1978 年）宮城県沖地震が発生、昭和 61 年（1986 年）ソ連チェルノブイリ原子力発電所事故、平成 13 年（2001 年）米国同時多発テロ事件、平成 23 年（2011 年）3 月 11 日の東日本大震災発生と様々な国際的、国内的な大事件大事故が発生しておりますが、第二内科学講座は連綿と真摯な研究姿勢、診療態度を維持してまいりました。

この姿勢こそが福島県立医科大学第二内科学講座の真髄です。その真髄は歴代教授の業績集の中に凝縮されております。第二内科同門会は今後、大学組織あるいは講座の形態が変化することがあっても第二内科学講座の研究、医療に対する根本的な姿勢、思想を伝え続けていくための支援者としてあり続ける所存です。

大平教授は開講 10 周年を迎えられました。教授職として今後 10 年余りを残したこの時期に講座を消化器内科学講座とリウマチ膠原病内科学講座に再編しリウマチ膠原病内科学講座主任教授に右田清志教授をお迎えして研究教育体制をさらに充実されました。いまだ、東日本大震災の痛手は色濃く残っておりますが新たな息吹を取り入れてさらに後進の指導、育成にご尽力いただけることを期待しております。

一つ一つの研究はどんなに小さなものであったとしても、それらが積み上げられ、相互に関連しあって新しい発見、創造につながっていくものと思います。それを可能にするためには、何らかの研究あるいは発表をした後は記録に残し公表する作業が重要であることは論を待ちません。しかし、自分自身を振り返ると第二内科学講座医局に在籍していた時代に教授、先輩の指導の下に数編の論文を書かせていただきましたが臨床医として臨床の現場に専念するようになってからはほとんど何も出来ていないことに気付いております。自分自身の実力のなさを棚に上げて言えば、やはり大学をはじめとした教育施設が十分に余裕をもって研究活動診療を継続できる環境を整備することが結局臨床現場にも余裕をもたらすことになり医学、医療の進展には欠かせないと思います。

第二内科同門会は同門会会員はもとより、関連の医療者、特に次代を担う若き医学徒の良き支援者になることを目指しています。

経済学者であり数学者であった宇沢弘文さんによれば医療は社会的共通資本の一つであるとされています。社会的共通資本とは「一つの国ないし特定の地域に住むすべての人々が、豊かな経済生活を営み、すぐれた文化を展開し、人間的に魅力ある社会を持続的、安定的

に維持することを可能にするような社会装置を意味する。」としています。そのような社会的装置は真実に裏打ちされたものでなくてはなりません。全ての研究者がそれを目指していると信じていますが、特に第二内科関連の研究が真実の探求に貢献することを願っております。

第二内科関連の業績集が今後とも研究者、医療者の引用文献の一つであり続けることを祈念して寄稿とします。

(2017年5月14日)